

平成28年度 播磨町水道事業報告書

1 概 況

(1) 総括事項

本年度の給水業務状況は、給水装置数が前年比で119栓（0.8%）増の15,750栓、給水人口は93人（0.3%）減の34,569人となりました。

なお、年間有収水量は、4,232m³（0.1%）減の3,546,846m³となっており、給水装置数が増加したものの給水人口の減少と節水意識の向上に伴って減少傾向が続いています。

本年度実施した工事は、配水施設については、野添城地区配水管布設工事や町道古宮土山線配水管布設替工事、町道古宮川端線配水管布設替工事などを行いました。

浄水場関連施設では第3浄水場2系フロキュレーター軸受メタル及び攪拌軸取替工事や第3配水池高圧受変電設備機器取替工事、取水井浚渫清掃工事（1号・6号取水井）などを行いました。

経営状況（税抜）については、総収益が619,235,820円に対して、総費用が525,965,466円で、当年度純利益93,270,354円を計上しました。

水道事業収益の主なものは、水道料金505,282,216円（81.6%）、長期前受金戻入[※注]87,330,533円（14.1%）で、収益全体の95.7%を占めています。

一方、水道事業費用の主なものは、減価償却費227,202,253円（43.2%）、支払利息及び企業債取扱諸費27,680,550円（5.3%）、職員給与費55,836,711円（10.6%）、県水受水費58,195,200円（11.1%）、動力費39,334,946円（7.5%）で費用全体の77.7%を占めています。

以上の結果、供給単価は142.46円、給水原価は122.83円になりました。

資本的収支（税込）については、総収入額が51,992,400円に対して、支出は建設改良費が69,574,695円、企業債償還金99,235,322円で総支出額168,810,017円となりました。

なお、不足する116,817,617円については、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額380,447円、減債積立金35,000,000円、過年度分損益勘定留保資金81,437,170円で補てんしました。

以上が平成28年度における経営並びに事業実施の概要であります。今後におきましても住民に安全で低廉な水を安定的に供給するため、水源の確保と効率的な事業運営に取り組み、公共福祉の向上に努めます。

<注>

地方公営企業会計制度の見直しにより、平成26年度から償却資産の取得又は改良に伴い交付される補助金等については、「長期前受金」として負債（繰延収益）に計上した上で、減価償却見合い分を「長期前受金戻入」として順次収益化する。（地方公営企業法施行令第26条、地方公営企業法施行規則第21条）